日ロ交流

発行: 特定非営利活動法人日ロ交流協会
E-mail:nichiro@nichiro.org
Home Page: http://www.nichiro.org
〒106-0041東京都港区麻布台3-4-14
麻布台マンシヨン401号
Tel：03 (5563) 0626　Fax: 03 (5563) 0752

NPO日ロ交流協会第21回（通算57回）通常総会開催

内堀 學

2021年3月20日（土）10時半から新橋生涯学習センター305号室にて当協会の第21回通常総会が開催され正会員16名が出席した。冒頭先年12月有馬前会長の急逝を受けて本年1月急遽会長に選任された朝妻新会長より簡単なご挨拶と開会の宣言が行われた。

総会の議長には定款26条に基づき出席正会員の中から朝妻会長が選出され、続いて定款27条に基づく定足数の確認があり、正会員出席者16名、書面表決者69名、委任表決者8名の計93名で、正会員数197名の1/3（66）以上であることが確認され総会の成立が確認された。定款30条に基づく議事録署名人には内堀専務理事、江本常任理事が選任された。

続いて議案審議に移り第1号議案「2020年度事業報告」、第2号議案「2020年度収支決算報告」、「2020年度会計監査報告」、第3号議案「2021年度事業計画」、第4号議案「2021年度収支予算案」が審議され原案通り承認され、通常総会は11：30終了した。

2020事業年度では3月からのコロナ禍により予定されていた多くの日ロ文化交流事業計画の実施が中止見送りになったため4年ぶりに収支が赤字となり年度期間収支　-264,701円、次期繰り越し収支が1,227,104円となった旨報告された。席上出席会員より会員数に比較し、会費収入が少なすぎるのではないかと指摘があり、従来12月に次年度会費請求をおこなっており12月と翌年1月以降に会費入金となっていたが、当年度（2021）より1月に請求することにしたため、当該年度（2020）の従来12月の入金分が当年度1月以降に入金されることになったためと説明があり了承された。

2021年度事業計画では文化交流、ロシア語教育に重点をおき、従来の事業活動を継続しながら、協会活動の魅力を高め、次代の活動をになう若手会員の増強、リーダーの発掘に務める方針が示された。2021年期間収支ではコロナ禍の影響で収益の柱である1月の他交流2団体と共催の新年会が見送りになったこともあり、888千円の赤字、繰り越し収支339千円を見込む。席上出席会員より協会の活動の情報発信を高めるため、YouTubeなどソーシャルネットワークの活用も検討すべきではとの提言がなされた。

総会終了後の恒例の懇親会はコロナ禍の影響で先年度に引き続き開催が見送りとなった。　（専務理事）

お願い

NPO日ロ交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。齋藤斗志二氏にご協力いただきました。ありがとうございます。
振込先:郵便口座 00160-9-66486、加入者：日ロ交流協会
連絡先:日ロ交流協会事務局 E-Mail:nichiro@nichiro.org

お知らせ

●ロシア語クラス生徒募集中！

水曜 初級2（18：00～19：00）初級1A-1（19：05～20：05）初級1A-2（20：10～21：10）
土曜 上級（10：00～11：30）
オンラインクラスは、ゼロから（4月5日スタート）、入門、初級、中級1、中級2、準中級のグループレッスンが6クラスあります。
＊事務所では少人数で実施し、消毒液、パーテーション等用意して十分配慮はしておりますが、受講の皆様はマスクの着用、換気、手洗い等、感染の予防にご協力お願いいたします。（緊急事態宣言の際は原則オンラインとなります。）

対面クラス、オンラインクラスともプライベートレッスンも実施しておりますので、ご希望の方はご相談ください。ベテラン教師陣が皆様をお迎えいたします。
コルド・ナターリア（初～中級）、イローナ・パルフェノワ（中～上級）、タチヤナ・スニトコ（初～上級）、ウラジーミル・ボロビエフ（初～中級）、オクサーナ・ピスクノワ

●テーマ別ロシア語「おもてなしロシア語」7
日時：2021年3月31日、4月4日、4月18日(日)13：30～16：00
場所：田町リーブラ（みなとパーク芝浦）2階多目的室
会費：会員7,000円、一般8,000円

●第72回マトリョーシカ絵付け教室
日時：2021年5月23日（日）13：30～16：00
場所：田町「リーブラ」2階、造形表現室
会費：3,000（お好きな教材１セット含む）
講師：菅野エレーナ

●日本の家庭料理講習会
日時：2021年4月3日（土）10：00～12：00
場所：田町リーブラ料理室
会費：2,000
＊会員のみとさせていただきます。
＊エプロン、布巾、持ち帰り容器をご持参ください。
＊お問い合わせ、お申込みは協会事務局まで。
Tel03-5563-0626、E-Mail：nichiro@nichiro.org

日本で「いけばな」を学ぶ

山岸 ひさ子

「春は名のみ」の言葉も、昨今は温暖化の影響で早くも桜は満開になり、お花見シーズンになりました。遡って昨年1月末にロシア大使館において「日ロ合同新年会」が開催され、入り口の広間には、大使館のご婦人方の友禅染の小物等の素晴らしい作品と、「いけばな教室」の皆様の作品が飾られました。

その後、2月「コロナ」の話題があちこちでささやかれておりましたが、すでに計画しておりました「古流松藤会」の流展は予定通り2月に開催され、「いけばな教室」の方々が揃って御来場くださいました。間もなく毎日コロナ感染のニュースが流れ、事情を気づかい3月から8月まで「いけばな教室」はお休みとなり、9月に再開することができました。

待ちかねたように皆さん揃って「いけばな」のおけいこに励んでおられます。ロシアと日本に咲く花の種類は異なることと思いますが、それなりに手際よく生け上げて、その早さには驚きます。生花は「天・地・心」と日本独特の花型で、流儀によって多少異なりますが、その難しさを一生懸命学んでくださいますことは、大変嬉しく感謝いたします。

生花の場合、必ず奇数の決まりがあり、生け上げた花型の美しさを感じます。

通商代表部の生徒さん

1本の水仙でも日本のいけばなの美しさがあります。フリースタイルの場合、先づ一番美しく見せたい所を焦点にし、又マッスの部分を設けてボリュームを出し、更に空間、奥行きを出し、全体の調和を図ります。何ごとも同じでしょうがこれで満足ということがなく、何時までも挑戦です。木ものの場合、材料が異なりますが、基本的には材料を選んだ後、方針を定め取り組んで見ましょう。「コロナ」が収まらないことには、花展を開くことが出来ず、早く落ち着いた日が訪れることを心から祈っております。

ロシア大使館には月2回、通商代表部には月1回、おけいこに伺っております。坂本常任理事には遠方毎回御足労をお願いし感謝申し上げます。（常任理事）

～イルクーツク便り（11）～

留学生活７年を迎えて・７

阿部 耕大

こんにちは、イルクーツク国立大学修士課程2年の阿部耕大です。3月に入りイルクーツクも朝7時には太陽が顔を出すようになり段々と春の訪れを感じています。ついこの前まで朝9時くらいまで真っ暗だったのに…。

春の到来に先駆けてイルクーツク国立大学ではオンライン授業から徐々に対面への切り替えが進んでいます。私が通う大学院の授業は週3日で全7コマ、小規模のクラスなので全授業を対面で実施中。最初は10人いたクラスメイトも徐々に減って最終的に4人…辞めていった人は就職したり家庭に専念したり、遠距離の彼女を追いかけて別の都市へ移住したり(笑)もちろん卒業するに越したことはないですが時間と共に興味の対象が変わるのは当たり前。彼らの人生の分岐点を垣間見れました。

大学内はお昼時などは生徒で溢れていますがマスクの装着や体温の測定のルールは形骸化している模様。例のロシア製ワクチンの効果が予想以上に出ているからもう安心しきってるのかもしれません。ただし対面になったことで先生に気軽に質問できる雰囲気が戻ったのは有り難いです。授業自体は4月上旬までですが、修士論文の執筆と並行してこなすには授業内容が一気に高度になってしまい宿題一つ終わらせるのも骨が折れます。外国人の自分はもとよりロシア人のクラスメイトも四苦八苦している模様。現時点で残っている生徒の中では誰一人として言語学やロシア語を大学で専攻していなかったので当然なのですが。

特に現代意味論という授業では、単語Aが含まれていることわざや慣用句、造語の見地から単語Aの意味本体には含まれていない連想（アソシエーション）を抽出する…というどこまで専攻（ロシア語教育法）と関係があるのか分からないものもあります。例えばロシア語では単語ｃ ｖ ｉ ｎ ь ｙ ａ（豚）からｃ ｖ ｉ ｎ ｃ ｔ ｖ ｏ （素行の悪さ）やｃ ｖ ｉ ｎ ｙ ａ ч ｉ ｔ ь（汚す）という同じ語源の言葉が存在してますが、それは豚という言葉自体には《汚い》という意味は含まれていないにも関わらず、豚は《汚い》動物だという共通認識=アソシエーションがロシア人の中に存在していることに関係があるからだ…とざっくり言うとこんな感じです。非常に興味深いですがなかなか理解が追いつかないです。それに豚が不憫になりました(笑)。

大学外での活動では対面授業の再開に伴って、1週間に1回程の頻度でイルクーツク州の3都市の学校（イルクーツク、アンガルスク、シェリホフ）で折り紙を教えるボランティアが始まりました。ロシア教育省の文化促進事業企画の一環らしく（ほぼ勝手に応募される+大事な詳細を後日知る←ロシアあるある）準備や移動だけでもなかなか大変だったりしますが、このような文化体験を通じてロシア人の子ども達が少しでも日本を知るきっかけになればいいなと思います。日本人が思うほどジャパンはロシアに浸透していないのでなおさら(笑)現地の小学生に日本人は中国語を話しますね？って3回は言われましたよ(笑)！

中ロ国境の町 ブラゴヴェーシチェンスク

畔上 明

日本に最も近いヨーロッパと呼ばれるロシア極東、その南部はアムール川とウスリー川によってロシア/中国間の国境線が引かれています。しかし、それまで清の範疇であった土地がロシア領となった歴史はほんの一世紀半ほど昔のことに過ぎません。日本では幕末期、弱体化しつつある清国につけこんでロシアは1858年瑷琿条約、1860年北京条約を締結、その先にウラジヴォストーク、ハバーロフスク、そしてブラゴヴェーシチェンスクといった新しい町が建設されていったことを念頭から外すわけにはいきません。

国境問題を考える学者の方々を中心とした「中露国境ツアー」の添乗員として、ブラゴヴェーシチェンスクを訪れたのは、3年前の8月末のことでした。中国黒竜江省の中心地ハルビンから北上し黒河（ヘイホー）に到着、黒竜江（アムール川）対岸にブラゴヴェーシチェンスクを臨むことが出来た時には、現在の中国の活気の良さと比べるとロシアは余りに静まり返っているように見えました。5分もあれば船で対岸に渡れることから、中露貿易が栄えた時には担ぎ屋が多数横行したものでしたが、既に貿易会館は用をなさずロシア土産品店がご愛嬌程度に散見されます。

予定していた中国船は予約も順番もへったくれもなく、割込み乗船に抗議するも甲斐無く積み残されてしまい、次のロシアのフェリー乗船券を新たに購入して黒河を出発、と忽ちにロシアに到着です。

1890年6月27日チェーホフ訪問を記念する碑

両都市からアムール川を渡る橋の建設が開始され、当時はそれぞれが相手の進み具合の遅さに苦言を呈していたものでしたが、その後ようやく2019年に双方からの橋が繋がり、いよいよ開通かという矢先にコロナ禍で現在待機の状態となっています。

ブラゴヴェーシチェンスクのアムール川沿いには対岸に向けてこれ見よがしに高層ビルが建っています。川岸通りは美しく、近くのチェーホフ滞在の記念碑、ニコライ皇太子訪問記念門などの歴史的建造物は見応えがありますが、先へ進めばロシアのどこにでもあるような素朴な街並み、そして戦後日本人抑留者がかつて住んでいた木造バラックや工場跡なども一部残っています。町の周辺には大豆畑が広がり、ロシア人による豆腐工場があって、美味しい豆腐料理が振舞われました。

課題図書の一つ「石光真清(1868-1942)の手記」四部作『城下の人』『曠野の花』『望郷の歌』『誰のために』は冒険物語的要素もふんだんで波瀾万丈、ツアー参加者は事前にその面白さに惹き込まれての大陸訪問。とりわけ義和団事件勃発の1900年にブラゴヴェーシチェンスクに滞在していた石光真清によって目撃された「江東六十四屯」の清国人虐殺「アムールの流血」の現場、南東110km先のコンスタンチーノフカ村への悪路を跳ねるように車で通ったことは並々ならぬ旅の記憶となって刻印されました。

さらに、北東42kmのイワーノフカ村を訪れた衝撃も強烈でした。1919年シベリア出兵の日本軍によって293名の村民が惨殺された恐ろしい歴史、近年明らかとなったその事実を元シベリア抑留者が現地に足を向けた時に知ることとなり、彼らの尽力により1995年に建てられた日ロ共同追悼碑が惨事をたどるよすがとなります。（「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー）

モスクワ「ムゼイ」巡り・その

バーチャル版トレチャコフ美術館（その2）

Государственная Третьяковская галерея

大矢 温

前回に引き続き、バーチャル版でトレチャコフ美術館を見学しよう。駆け足の見学なので、いきなり19世紀後半の作品から。ロシアに油絵が伝わるのは18世紀のことだが、それ以後「良い絵」の基準は美術アカデミーの展覧会での入賞歴だった。ところが1870年代に入ると美術アカデミーの権威に反抗して、自分たちで展覧会を開く、「移動展派」と呼ばれる芸術家のグループが現れる。

ヴァシーリー・ポレーノフもその一人。代表作は**「モスクワの中庭」**。のどかな田園風景のようだが、これは現在のモスクワのど真ん中。ポレーノフの家の窓からの風景だ。彼の部屋からの眺めを見てみよう。

イヴァン・クラムスコイの**「忘れえぬ女（ひと）」**も日本人のファンが多い作品だ。原題はНезнакомая（見知らぬ女）。モデルの正体は今に至るまで不明のままだ。誇り高そうな視線が「忘れえぬ女」である。同じ部屋には「荒野のキリスト」も展示されている。

移動展派の代表者として**イリヤ・レーピン**も忘れえぬ。代表作は**「クールスクの十字行」**。イコンの御開帳に集まった様々な身分階層の民衆の姿が生き生きと描かれている。向かって左側の展示室には「イワン雷帝と皇太子イワン」も展示されている。怒りに任せて最愛の息子を殴り殺し悲嘆にくれるイワン雷帝である。すぐ後ろにはムソルグスキーやトルストイの肖像もある。

アレクセイ・サヴラソフの**「ワタリガラスが飛んできた」**もお勧めだ。一見、陰気な色彩の地味な作品だが、雪や氷が解けて地面が顔を出したところが描かれている。春の訪れを待ち焦がれるロシア人の心情を表現した傑作だと思う。

これまた移動展派の**ワシーリー・スリコフ**は歴史ものを得意とした。**「モロゾワ大貴族夫人」**。鎖につながれて連行される夫人が二本指を高く掲げているが、これは「古儀式派」のシンボル。17世紀のニーコン総主教による宗教改革を受け入れず、それゆえ弾圧された人々だ。

（札幌大学地域共創学群　教授）

＊3月号の記事でロシア語の題字が間違っていました。お詫びいたします。（編集部）

ロシアの歴史認識とスターリン

西山 美久

ロシアでは過去の出来事を巡って論争が繰り広げられている。特に、独裁者とされるスターリンの評価については、政治家や専門家のみならず、一般市民をも巻き込んで様々な議論が展開されている。例えば、ソ連を戦勝に導いた指導者といった評価もあれば、自国民の人権蹂躙を容赦なく行った人物といった負の側面を強調した評価もあり、現代ロシアではその評価が真っ二つに割れている。

この点、プーチン大統領や政権幹部等はスターリンについて様々な評価があることを認めつつ、出来る限り功罪両面に着目してバランスの取れた議論を展開すべきだと説いている。とはいえ、プーチン大統領は国民の愛国心を鼓舞する政策を推し進め、独ソ戦での勝利の意義を大々的に喧伝しており、戦勝に導いたスターリンの功績が強調される傾向にあるようだ。

ここで最近の世論調査を確認しよう。例えば、独立系調査機関「レヴァダ・センター」が2019年に実施した調査によると、スターリンがロシアの歴史で肯定的役割を果たしたと捉える国民は過去最高の70%に達したのに対し、否定的役割との回答は過去最低の14%であった。また同調査によると、スターリンを尊敬する国民の割合も増えており、41%を記録したという。政権による愛国心高揚を狙った政策の影響もあるのか、世論調査を見る限り、肯定的評価がロシア国民の間で増えているようだ。

さて、2009年8月にモスクワ地下鉄環状線クルスカヤ駅の改修工事が終わり一般公開されると、一部メディアは、スターリンを讃えるソ連国歌の歌詞が刻まれた改札ホールや、「スターリンのために」と刻まれた柱があることに注目し、驚きをもって報じた。この改修工事を巡って人権活動家等が抗議の声を上げたものの、モスクワ地下鉄は「歴史の公正性のため」として自らの決定を正当化しており、クルスカヤ駅を訪れると現在でもその様子を確認できる（写真参照。いずれも筆者撮影）。

2020年6月にプーチン大統領は歴史認識に関する自らの見解を示した長大な論文を発表しており、今後もロシアの動向に注目が集まるだろう。（北海道大学）

ロシア仕込みの牛痘種種痘法を日本の北辺の地で実践した中川五郎治

倉田　有佳

新型コロナウイルスのワクチン接種が始まった。そのためか、昨今はワクチン（種痘）で撲滅させた天然痘が何かと話題に上る。ロシア仕込みの種痘（牛痘）の技法を実践した人物と言えば中川五郎次（治）（1768－1848年）である。

下北半島の川内村（現青森県むつ市）に小針屋佐助の息子として生まれた佐七（後の五郎次）は、長じて蝦夷地、さらに択捉島に渡る。漁場の番人小頭をしていた1807年、レザノフの部下フヴォストフの来襲（「フヴォストフ事件」）で捕らえられ、オホーツクに連れて行かれた。

二度脱走を試みるも失敗し、二度目の脱走中、共に連行された佐兵衛（佐平、左兵衛、左平とも）が腐った鯨肉を食べて命を落した。だが5年が過ぎた頃、送還のチャンスが訪れた。

帰国後、松前奉行所および松前藩に取り立てられ、中川五郎次を名乗るようになる。初めて種痘を行った年を特定する文書はないが、1885（明治18）年に函館の役人が五郎次から接種された者を調査した際、接種を受けた年齢を正確に答えられた最年長者（数えで72歳の田中イク。函館の商人田中正右衛門の母）が11歳の時に松前で受けたと証言したため、1824（文政7）年には行われていたことが明らかにされた。これは五郎次の帰国から12年目、ジェンナー式の牛痘法が日本で成功する四半世紀前のことである。なお、五郎次から接種を受けた者の数は、数回の調査で12名まで確認されている。

五郎次自身は種痘法に関する記録を残さなかったが、五郎次から伝授された医師の一人である白鳥雄蔵が『白鳥雄蔵種痘之書』を残した。雄蔵は、1793年にロシアの最初の遣日使節アダム・ラクスマンが函館に来航した際、屋敷に招き、食事や風呂でもてなした白鳥新十郎の次男に当たる。

上記書によれば、種痘の部位は、男子は「左ノ腕肩ノ骨上ヨリ下二寸余」（写真）、女子は右腕に。接種の数は、一歳児は一つ、「気力」（体）の強弱を考慮して接種数を加減した（松木明知『中川五郎次とシベリア経由の牛痘種痘法』北海道出版企画センター、2009年。著者は元弘前大学医学部教授）。この術を得た白鳥雄蔵は秋田に行き、藩医に伝えたため秋田藩主に認められ、１年で350人に種痘を施し、みな功を奏したと伝えられている（『函館市史　通説編１』）。

ところで、五郎次以外にもロシアで牛痘種痘法を習得した者がいた。「歓喜（亀）丸」の漂流民久蔵のことだ。同じ船で漂流した6名は五郎次と共に送り返され、その一年後、久蔵は痘苗（疱瘡種）を入れた硝子器をオホーツクから持ち帰った。だが、故郷の安芸国広島藩の藩主浅野斉賢を前に説明するが信じてはもらえず、廃棄されてしまった。

五郎次の死から10年後、北辺の地函館に日本で最初のロシア領事館が開設され、領事館附属のロシア病院は日本人の患者も治療し、日本人医師が西洋医学を学ぶ場になった。

（ロシア極東連邦総合大学函館校教授）